

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月25日実施)	総合評価	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①「自立と社会参加」をめざし、子どもたちの主体的対話的で深い学びを実践する  ②組織的な授業改善を行うとともに、専門性の向上を図る	①子どものめざす姿を明確にした授業を実践する  ②協働的な学び合いを通して授業改善を進め、専門性の向上を図る	①アセスメントの結果や日常の行動観察による情報を共有する  ②授業検討会を充実させる。必要な内容を検討しながら研修会・学習会を実施する	①一人ひとりにあった授業内容や指導を実践することができたか  ②役割を明確にした円滑な検討会が実施できたか。専門性を高める研修会や学習会を実施することができたか	①アセスメントの結果、プロフィール票、日常の行動観察による情報を共有し、幼児・児童・生徒の実態に即した授業を実践することができた。  ②進行役の役割を明確にして検討会を行った。授業改善研修2回、夏の公開研修会（5講座）、聴覚障害理解講演会、視機能講演会、ICT活用講演会、他部門紹介研修会、さがちゅうゼミ4回、教材教具展を実施した。	①引き続き、情報を共有していく。また、他学部の授業参観も積極的に行い、授業方法を学び、取り入れていく。  ②引き続き役割を明確にし、話し合いの視点をおさえた授業検討会を行っていく。後期に計画している研修についても、円滑に実施していく。	・アンケートの評価について先生方は控えめな評価をしているが、保護者とよくコミュニケーションをとることができていると思う。  保 A B C D 69% 27% 3% 0% 教 A B C D 31% 56% 11% 1%	①アセスメントの結果等の情報を共有したことで、関わる教員が、幼児・児童・生徒の一人ひとりの実態に応じた指導を実践することができた。  ②授業検討会による協働的な学び合いや研修を通して、専門性を高めながら授業改善を行った結果、幼児・児童・生徒が自分から課題に取り組む姿が見られるようになったり、課題に取り組む時間が増えたりするようになった。	①引き続きアセスメントの結果や日常の行動観察による情報を共有し、一人ひとりに応じた指導を実践していく。  ②引き続き組織的に授業改善を行っていく。
2	幼児・児童・ 生徒指導・支援	①ICT 機器の利活用により、一人ひとりのニーズに応じた教育を実践する  ②高度化、複雑化する医療的ケアについて、安全に実施する校内体制の整備をすすめる	①一人ひとりのニーズに応じた端末活用の実践を進め、学びの充実を図る  ②安全な医療的ケアの実施と通学支援の推進を図る	①ねらいをおさえた端末の活用を実践し、教員間で共有する。また、ICT 活用相談システムを構築する  ②水泳指導、緊急時のリスク対応、通学支援事業について検討し、安全に実施する	①ねらいをおさえた端末の活用の実践と成果の共有をすることができたか  ②学習場面や学校生活でのリスク対応、安全な通学支援事業について検討することができたか	①ICT を活用するために、外部講師による講演会を実施した。校内研修会や学習会を実施し実践報告や端末の活用方法、アプリの紹介等を行った。端末の活用をサポートするための窓口を設置した。 ②水泳指導時・人工呼吸器使用時・アレルギー等の緊急時リスク対応について、シミュレーションを実施した。また、通学支援事業の希望により、安全な乗車について検討し進めた。	①引き続き、端末活用の事例や情報の共有を行い、ねらいをおさえた端末活用の実践につなげていく。端末の活用をサポートするための窓口の更なる活用を促していく。  ②事前のシミュレーションと当日の体制の変更点を確認しておく。通学支援事業は対応できる福祉車両の事業所を新たに見つけることが難しい状況が続いている。	・実践報告会がとてもよい。効果的である。今後も広める、深めることができるとよい。 ・深めるときに個々のお子さんに合わせた目標を設定し、PDCAサイクルで実践評価していけるとよい。 ・ICT 機器について、子どもたちは、好きなようである。  保 A B C D 58% 35% 5% 1% 教 A B C D 36% 51% 16% 1%	①講演会、研修会、学習会等を通して端末活用の事例や情報を共有したことにより iPad や Chromebook を活用した授業づくりができるようになった。  ②福祉車両5人、スクールバス4人の利用があった。車椅子ごと乗り込める車両を保有している事業所を見つけていることが難しい、また、学校看護師の勤務状況、スクールバスの座席の確保等が課題である。	①引き続き端末活用の方法やアプリ等の情報、実践の共有を行いながら、一人ひとりのニーズに応じた端末活用の実践と検証を進めていく。  ②学校看護師の勤務やスクールバスの座席確保に課題がある場合は、福祉車両の利用も視野に入れて検討していく。また、他の介護施設等の車両の利用も含めて検討していく。
3	進路指導・支援	①子どもたち一人ひとりの生活の充実をめざし、発達段階に応じた一貫した教育を行う  ②将来を見据えた地域生活充実のため、余暇活動、障がい者スポーツを促進	①アセスメントを通して、丁寧な実態把握を行い、個々に応じた支援を行う  ②余暇活動、障がい者スポーツを促進する	①アセスメントの活用ができるよう、研修会で周知する  ②第3回ざんがボッチャ大会を実施する。余暇活動の幅を広げる	①子どもに迫った実態把握を行い、適切な支援をすることができたか  ②地域に密着した大会となったか。また、スポーツ以外の余暇活動の情報を	①ニーズに応じて専門職、進路専任、教員が連携し校内アセスメントを実施した。研修会により、フォーマルなアセスメントについて、情報を共有した。また、チーム員がアセスメントを実施中である。 ②卒業後の進路先の事業所からイベントの案内を受け、校内で周知した。ボッチャ大会の案内を地域の広報誌にも掲載して	①生徒の様子を観察するための時間の確保について工夫する。また、アセスメントの結果を実態把握に生かし、日々の活動や支援につなげることができたか確認していく。  ②運営ボランティアの申し込みがなかった。前年度から継続して運営ボランティアを募集していく。パラスポ	・進路について、保護者の関心が高い。学校卒業後について、本人、保護者が不安に感じるということは、言い替えれば学校が安心できる場所であるということ。学校と進路先の引継ぎを大切にしていってほしい。  保 A B C D	①アセスメントについて、自立活動教諭を中心とし様々な立場の教員がアセスメントを行った。卒業後の進路先を意識した支援方法を共有することができた。  ②地域の広報誌に学校紹介とパラスポーツグッズ貸し出しのチラシを掲載した。また、学校ホームページにも掲	①引き続きアセスメントの周知・活用・有効性の共有を図っていく。  ②地域のイベントに参加する際に、チラシを配布し周知していく。第4回ざんがボッチャ

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月25日実施)	総合評価	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		する			得ることができたか	いただき、校内外から11チーム参加予定である。	ツググズの貸出をする。	41% 42% 13% 3% 教 A B C D 27% 53% 16% 2%	載した。ボッチャグッズの借用希望があり、貸し出しを行った。	大会を開催する。
4	地域等との協働	①地域社会と連携しながら、社会性を育む	①地域資源を生かした教育活動を実践する	①居住地交流や学校間交流を実践する。地域の活動に参加する	①地域と連携した教育活動を実践することができたか	①学校間交流では、共和小学校への出前授業を1回、実施した。また、小学部が全3回、交流を行った。	①居住地交流について、周知されていない現状があった。県の依頼文と共に、丁寧に説明していく。	・学校コンサルテーションについて、どのくらい訪問しているのか知りたい。→15校程度。その他、乳幼児相談10件程度。ケース数としては全体で30～40ケースとなった。 保 A B C D 51% 38% 8% 1% 教 A B C D 23% 55% 20% 1%	①オンライン授業の利用、共和小学校との交流や清掃活動、自動車販売業者の洗車作業、パンの販売等、地域と連携した学習を実践することができた。 ②障害理解・困りごと・支援方法について、学校コンサルテーションを意識した協議・助言を行った。	①年度初めに交流方法や手続きについて説明・確認し、地域資源の活用や交流を継続していく。 ②通常の学級や高等学校等への支援についてもアピールし、ニーズのある所へ支援を広げていく。
		②共生社会づくりの実現に向けた地域のインクルーシブな環境づくりを推進する	②地域の学校、関係諸機関等との連携を図る	②各学校への支援や研修会の中でセンター的機能について発信する	②センター的機能について発信し関係諸機関と連携することができたか	②ハローワーク、相模原市教育委員会と連携し、適宜、特別支援学校の紹介や情報提供、研修会を実施した。	②センター的機能の活用の仕方について、関係機関と相違があった。丁寧な説明と情報提供を行っていく。			
5	学校管理 学校運営	①信頼と期待に応える学校づくりを推進する	①学校の様子や取組みを発信し、保護者の信頼と学校教育への理解を得る	①年に2回、授業参観日を設定する。アンケートを取り保護者の意見を聴く。また、普段の授業への見学を呼びかける	①授業参観日や授業見学等を通して、学校での活動の様子を知ってもらうことができたか。保護者からの意見を聴き、改善することができたか	①1回目の授業参観日を設定、実施した。保護者アンケートの結果は概ね良い評価を得た。普段の授業の参観は、事前に連絡帳等でお伝えいただき対応した。	①2回目の授業参観日を設定、実施する。普段の授業の参観については、お知らせに掲載し参観を呼びかける。また、日課変更があった際に対応できるよう、引き続き事前に連絡していただく。		①「家庭とは異なる子どもの様子が見られてよかった」等、の感想をいただいた。普段の授業参観については、徐々に問合せは増えつつあるが、まだ少ない。	①来年度も授業参観日を年間2回設定する。普段の授業参観について浸透を図るために、新たな方策を検討していく。学校の様子の発信については、ホームページの活用を検討していく。
		②安全で安心な教育環境の整備に取り組む	②安全で安心して学習に取り組むことのできるよう教育環境の整備を進める	②定期的に点検を行い、迅速に修理・改善する	②定期的に点検し、必要に応じて修理・改善することができたか	②1学期末に安全点検を実施し、修理・改善した。また、体育館2階のキャットウォーク部分の不要物品を処分し整理した。	②所持者不明の物品があった。物品に名前や学年を付け、常に所持者が分かるようにする。		②全職員で安全で安心して学習に取り組むことのできる環境整備を行うことができた。開校14年目になり、様々な不具合の発生があった。	②引き続き、定期的な安全点検と随時の修理修繕依頼を行っていく。事務と連携し、不具合箇所の修理修繕を検討していく。
		③計画的、組織的な危機管理体制の整備をすすめることで、学校安全を推進する	③危機管理マニュアルの点検を通して、学校生活の安全を推進する	③危機管理マニュアルに不備がないか確認し、修正点は改訂する	③危機管理マニュアルを点検・確認し、修正点を改定することができたか	③危機管理マニュアルを確認し、必要な個所を修正した。	③市の関係機関の連絡先が更新されていなかった。定期的に見直し、新しい情報を掲載する。	・福祉避難場所について、BCP事業継続計画、発災したときの事業継続の計画についてはどのようにしているか知りたい。→学校防災活動マニュアルがあり、該当している。	③福祉避難所マニュアルの改訂を行い、新しい情報に修正した。	③相模原市の新しい情報を取り入れるよう、随時更新していく。
		④不祥事防止の徹底を図る	④取組みを継続し、伝えあう関係性と人権意識を高める	④定期的な研修会、各種会議に継続して取り組む	④伝えあうことができたか	④定期的に不祥事防止会議や不祥事防止研修会を実施し、報連相の意識の醸成や人権意識の向上につなげることができている。	④継続して取り組む。		④伝えあう関係性と人権意識を高めることができた。	④継続して取り組んでいく。
		⑤教職員の働き方改革を推進する	⑤授業準備や教材研究の時間を確保することで教員同士の連携を促し、より良い授業を行うことのできる環境にする	⑤学習指導要領に沿って教育課程を見直す	⑤教育課程の変更を丁寧に説明し、教職員や保護者の理解を得ることができたか	⑤「教育課程の変更について」の保護者説明会資料とアンケートを配付し、意見を集約した。また、朝の全体打合せの回数を2日に1度に、職員会議を书面開催に、出張報告を簡易化する等を実施した。	⑤アンケートの回答を配付し、12月の保護者説明会に向けて準備を整える。	・教員の回答率が100%になるとよい。また、集計と分析の結果が分かるとよい。  保 A B C D 65% 26% 5% 2% 教 A B C D 31% 50% 13% 5%	⑤アンケート及び保護者説明会で様々な意見をいただいた。登校時間についての御意見が多く、保護者の皆様には御負担をかけることになるが、安全安心な学校を目指して教育活動を行っていく。	⑤新教育課程の実施に伴い、幼児・児童・生徒の学校生活の様子を丁寧に把握していく。教職員の朝の打ち合わせ時間の使い方についての検証を行っていく。